



学校における働き方改革の取組について～須崎小学校～

須崎小学校は、12月に県教委が実施した教員の働き方改革に関するアンケートで、県平均を大きく上回る結果が出ています。また、時間外在校等時間をR6・R7年度の1・2学期と比較すると、約14.7時間も削減されています。

今回は、働き方改革を積極的に進めている須崎小学校に「やってみてよかった」「他の学校にもおすすめしたい」というテーマで取組を紹介していただきました。

学校平均と県平均の比較



1. 業務改善検討委員会	◇学期に1回開催し、実現可能なことは即実行。	⇒成績処理期間の“スーパー下校”など実働させる。
2. スーパー下校	◇学期末成績処理期間(学期末3日間)14:30下校	⇒「これまでの自分の成績の付け方を反省することができた。」
3. 昼休みの全校ドッジボール	◇管理職が審判	⇒学級経営のやりやすさと指導案件の減少 ⇒担任の昼休み確保
4. 職場環境の整備	◇職員室の美化 ◇学期に1回のクリーンタイム	⇒“物に定位置あり、定位置に物あり”
5. 長期休業中の宿題丸付け	◇始業式会場にプリント集を持参し、7年団が丸付けとお直し管理	⇒学期はじめに児童や教科指導に担任が注力できる ⇒7年団が学校全体の学力状況を把握できる。
6. 校内研修のDX化	◇NotebookLMの活用	⇒膨大な資料からスライドをつくらなくても良い。
7. 複線型・自由進度学習	◇全担任ができる	⇒ラーニング・コモンズでお互いの授業を見合って研鑽が accrue。 ⇒児童が主体的になることで、教師の指導性が発揮される。
8. 総合的な学習の時間のデザイン	◇全校の探究を“須崎デザイン”で進める。	⇒探究のシナリオを統一することで、協働的に担任が取り組める。

この他にも、

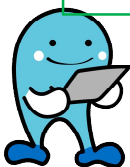
- ① 定時退庁日（月曜17時）だけでなく、毎日18時まで全員で一緒に帰る
- ② 業務のすみ分け（中教審の3分類を参考に、担任と7年団で業務分担）などの取組もされています。

【校長先生より】

働き方改革の結果、子どもや授業に向き合う時間や心の余裕や協働性が生まれ、最終的に各種学力調査すべてで昨年度より大幅に学力が上昇するとともに低学力の児童も減少し、生徒指導も激減しました。

働き方改革（業務の適正化）をするのは、自分たちが楽をしたいからではない、ということもはっきりエビデンスが取れました！

職場環境の整備やNotebookLMの活用などは、どの学校でもすぐに取り組める、働き方改革の第一歩です。ぜひ、須崎小学校の取組も参考に、学校における働き方改革を進めてください。



学校における働き方改革推進モデル校事業 成果報告会

令和7年度にモデル校として働き方改革の推進に取り組んできた、香美市立楠目小学校、高知市立介良潮見台小学校、いの町立伊野中学校、宿毛市立片島中学校、高知工業高等学校の5校から、1年間の取組成果の報告がありました。

明日からすぐに真似できそうな事例や、地教委や子どもたちと一緒にやって取り組んだ事例、本事業を通じて「学校が本当に大切にすべき教育活動」を明確にした事例など、多くの取組を紹介していただきました。

各学校の取組を一部ご紹介します。

- ◆香美市立楠目小学校
掃除頻度や行事の見直し
配布物の精選



- ◆高知市立介良潮見台小学校
教職員同士で助け合える仕組み作り
(印刷してほしいBOXの設置)



- ◆いの町立伊野中学校
定期テストの実施方法見直し（従来通りor単元テスト）
校時表を生徒と一緒に見直し

- ◆宿毛市立片島中学校
部活動の熱中症防止の観点から、夏季休業期間中の出勤時間を選択制にし、顧問の負担軽減を図る。

- ◆高知工業高等学校
行事精選&行事運営をこれまで以上に生徒主体に変えていく。

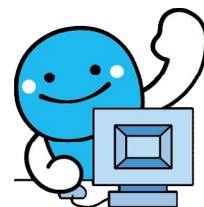
この他にも、配布物の精選や、留守番電話の設定時刻の見直し、職員朝礼の方法や回数の見直し、Googleカレンダーやチャット等ICTの活用など、様々な取組が行われました。

閉会挨拶では、今城教育長が「ぜひ「自分ごと」として、何か一つだけでも今日から実践してみてください。その一步一步の積み重ねが、高知県の教育の未来を切り拓く大きな力となります。」とお話されました。

この1年間、モデル校として取組を進めてこられた5校のみなさまにおかれましては、日々の多忙な業務と並行しながら、学校における働き方改革について、たくさん挑戦していただき、本当にありがとうございました。

本報告会の様子は、高知家まなびばこに掲載していますので、ぜひご覧ください。
(<https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/310601>)

令和8年度のモデル校事業での取組については、次号以降の働き方通信で随時お知らせします ✨



働き方改革ワークショップについて

令和7年度にモデル校で実施したワークショップについてご紹介します。
3パターンありますので、各学校の状況に応じて使用してください。

◆パターン①

教職員全員で改善アイデアを出し合い、カテゴリライズし、取り組んでいくアイデアを決定する

◆パターン②

パターン①で出し合った改善アイデアに具体的に取り組んでいくための方策を話し合う

◆パターン③

教職員個人のタイムマネジメント（時間の使い方）について、個人裁量で出来る業務改善について検討する。

うえのワークショップを実施するための、

1. 参考動画（パターン①）
2. スライド（パターン①②③）
3. ワークシート（パターン①②③）
4. 準備物等を書いた資料（パターン①②）

を、高知家まなびばこに掲載しています。



「ワークショップを見学したけれど、自分の学校でやる前に復習をしたい」「どうしても都合がつかずワークショップを見学できなかったけれど、自分の学校で働き方改革を進めたい」など、ニーズに合わせられるようにしていますので、学校における働き方改革を進めていってください。

なお、学校における働き方改革推進モデル校事業は、令和8年度も継続して実施いたします。外部コンサルタントによるワークショップを実施してみたい学校は、市町村（学校組合）教育委員会または教職員・福利課までご連絡ください。（※校数には限りがあります。）

余白を生み出し、教育の質の向上へ

Before	After
勤務時間	勤務時間
プライベート 健康増進・豊かなインプット等	プライベート 健康増進・豊かなインプット等
創造的余白 子どもと真に向き合う教育創造チャレンジ等	創造的余白 子どもと真に向き合う教育創造チャレンジ等
業務改善 削減/縮小/精選/交代/在り方転換の可能な業務等	業務改善 削減/縮小/精選/交代/在り方転換の可能な業務等

※味の素で印刷
Copyright © 高知の学び研究所 All Rights Reserved.

①【現在の手段】 ・この手段は、だれにとってどんな「価値」がある？
・本音で言うとしたら、この手段の「課題」はなんですか？

価値	課題
<ul style="list-style-type: none"> 学力の定着化 家庭での学習習慣が身につく 授業だけでやりきれない部分を補充することが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉一律の宿題では生徒一人一人の習熟度に合っていない 答えを丸写しする生徒もいて、提出する/させることが目的化している（学力への効果も…?） 提出物チェックの負担が大きい お互いの授業みだれになっている

②【手段の提案】

効果（大）

- 宿題なし（生徒の主体的な学びとして完全に自主課題）
- 宿題は選択制で出すがチェックはしない
- 宿題を出し量を減らす

効果（低）

- AIドリル/アプリのみ
- 教科横断での宿題の編みこみ・精選
- まずは生徒の生の声を聞くためのアンケート実施

難易度（難） ← 難易度（易）

【プロジェクト名】
宿題問い直しプロジェクト

【メンバー】
大野 中野
小野 超野

④【実行計画表】 ・担当者の負担が配慮されていますか？

内容	日付	担当者	チェック	配慮点
校内で提案する日	12/25	大野	☞	資料作成を給食ローテした分で実施
外部に共有する日（保護者や区教委など）	1/9	中野	☞	学校だよりで保護者に共有
試行実施する日	1/15	超野	☞	各部活動で最適な運営に変更
振り返る日（改善点を挙げるなど）	1/22	小野		
本運用の日	2/5	大野		

③【新たな手段】 ・みんな（子ども/保護者や/教員）にとって、納得のいく手段になっていますか？

- ・教科ごとにばらつきがあり、提出する/させることが目的化している点、双方の負担も高いため、まずは生徒の声を聞きながら何のためにやるのか（目的）を問い直す
- ・その結果、宿題を生徒の主体的な学び（自己選択・自己決定）につなげていくために宿題・課題無しのお試し期間を1か月設定する
- ・試行実施した上で最適な宿題の在り方を検討する

Project

●働き方改革につながる実践例やアイデア等を募集しています。右のQRコードより情報提供をお願いします。 → →

発行：高知県教育委員会事務局教職員・福利課
電話：088-821-4901 E-Mail：310601@ken.pref.kochi.lg.jp

